

---

日付： 2004年10月29日  
提出元： (株)アッカネットワークス  
題名： 第3版で使用する多重漏話減衰量  
課題表対応 C.4.3

---

第3版で使用する多重漏話減衰量についての再提案である。

前回SWG会合で標記に関して、

- 収容制限無し場合は、カッド内漏話減衰量を、
- 収容制限有りの場合は、隣接1回線の漏話減衰量を

使用することになったが、下記理由により、収容制限無しの近端漏話減衰量を除き、

- 収容制限有りの場合は、カッド内+隣接1回線の多重漏話減衰量を
- 収容制限無しの場合は、隣接2回線の多重漏話減衰量を

使用するのが合理的を考える。なお、

- 収容制限無しの近端漏話減衰量はカッド内の漏話減衰量を使用する。

#### 理由

- 1) SBBのデータ(SMS-15-SBB-02R2)、弊社計算結果(SMS-15-ACCA-03)により干渉源は99%累積値で2回線存在する。  
2回線のうち、カッド内に干渉源がある場合は約8%であるが(SMS-15-SBB-02R2)、安全をみて1回線はカッド内回線とする。(収容制限無し)
- 2) 収容制限をしても、与干渉回線は2回線存在する(約92%)。
- 3) 次ページの表に示すように、  
遠端漏話(カッド内+隣接1回線)は、カッド内のみより漏話減衰量の値が悪い(小さい)。  
近端漏話、遠端漏話とも隣接2回線の多重漏話減衰量は、隣接1回線より漏話減衰量の値が悪い(小さい)。

1. 近端漏話減衰量

[単位： dB]

	平均値	標準偏差	2.33 値	使用ケース
カッド内	64.0	5.88	50.3	収容制限なし
カッド内 隣接1回線	62.54	5.02	50.8	
隣接2回線	68.23	4.83	57.0	収容制限あり
隣接1回線	72.9	6.25	58.3	

(注) 第2版の値 収容制限なし 50.0  
収容制限あり 55.0

2. 遠端漏話減衰量

[単位： dB]

	平均値	標準偏差	2.33 値	使用ケース
カッド内	69.2	6.56	53.9	
カッド内 隣接1回線	66.11	5.60	53.1	収容制限なし
隣接2回線	68.64	6.40	53.7	収容制限あり
隣接1回線	74.2	8.15	55.2	

(注) 第2版の値 収容制限なし 51.5  
収容制限あり 52.0